

「黄金色の夕日との出会い」

小牧市立篠岡中学校

夕焼けの写真、星空の写真、海の写真、山の頂上からの写真、どこかの田舎の写真…。全てSNSで見つけた写真なのだが、全て綺麗で美しい。時には言葉で表すことが難しく、なんて表現したらしいのかわからないけれど、なぜだかずっと見ていきたいと思い、心を奪われてしまうような写真もある。これらの写真には確かに私の心が揺さぶられる。いや、私だけではなく、見た人全員が綺麗だと思うだろう。けれども、果たして写真を撮って実際に見た人と、画面越しに見た本人が感じることは同じなのだろうか。きっと、天と地ほどの差があるのではないだろうか。自分は、投稿者の五感全てで、美しい、綺麗だと感じた経験が、この時すごく羨ましく思えた。しかし、それは自分が気づいていないだけだった。羨んでばかりで、外に出ることもなく、周りを見ていなければいけなかった。実際には自分にできることも、たくさんあるのだとある日気付かされたのだ。

それは昨年度末のことだ。学年末テストも終わり、することがなかった土日。家でゴロゴロしながらスマホを見ていた。そうしたら、リビングから両親の話し声が聞こえてきた。どうやら、夕食を作るのに使う醤油を切らしてしまったらしい。こういう時は必ずと言っていいほど父が、「買い物がてら散歩に行ってくるよ」と心よくおつかいを引き受ける。すごく優しい父なのだが、その後自分の部屋に来て必ず「暇そうだな、だったら散歩に付き合ってくれ」と誘ってくる。今回も誘ってくるだろうなと思いながら、いつも見ていている日本の風景や景色についての動画を見ていたら、案の定、部屋に入ってきて誘ってきた。何分かの小さな言い合いの末、しつこく言ってくる父に呆れ、散歩に付き合うことにした。

外に出て五分もたたないうちに、散歩に付き合ったことを後悔した。「風が強すぎる、寒い。はやく家に帰りたい。」と思いながら父と歩いた。二十分ぐらい経っただろう。ふと顔をあげると、青い空から黄金色の空へとグラデーションがかかった、何とも不思議で、でも、美しい景色が目にとびこんできた。空だけではない。周りを見わたすと、黄金色の夕日に照らされ、光り輝いている。いつもとはなにかが違うように見える風景。普段、車の中から見ている何気ない風景なのだけれども、それが、夕日のせいか無性に美しく感じられてしまう。自分は無意識のうちにポケットに入れているスマホを取り出し、写真を撮っていた。いつもはSNSの画面越しに羨んで見ていた風景や景色。それが、今、私の目の前で繰り広げられている。実際に見てみると、感動の言葉すら口に出すことができないほどだった。

買い物の後、家に帰り、スマホで調べたら、自分が撮影したものよりはるかに美しい夕日の写真が何枚も出てきた。スマホの中には、いくらでも出てくるような風景。それでも、さっき自分がこの目で見て、思わず撮影した写真を見ると、なぜかすごく満足な気持ちになった。普段、画面越しで羨ましく思えていた風景に意外なところで出会えた。この風景は、夕日というスポットライトに照らされるまで、目立たず、ひっそりと、でも、堂々と、まるで、誰かに見つけてほしかったように、私の背後に隠れていた。それ出会い、実際に見た人にしか分からない感動、感情を、自分は今、初めて自覚したのだ。

SNSの中で生きて、自分にはできないことに嫉妬し、羨むだけの日々を過ごしてきた自分に、今は言いたい。外に出てみれば自分ができることなんていくらでもあるのだと。思えば私は考えるのを忘れ、自ら目を閉ざして視野をせまくしていた。それに気づくことができたのは、父のおかげだ。小競り合いしても、ついていってよかったと思う。これからは、自分の足で世界を歩き、自分の目でしっかり見ていくこうと思う。この経験、考え方方は私のこれから的人生を間違いなく彩ることになるだろう。